

# かわむらこどもクリニックNEWS

Volume 20 No 10

231号

平成24年10月 1日

かわむらこどもクリニック 022-271-5255

HOME PAGE <http://www.kodomo-clinic.or.jp/>

## 性教育 PTA 親子行事

### 院長

以前に「小松島小 PTA 行事で性教育を」(2009年10月号)を紹介しましたが、5回目を迎えたので、一つの区切りとして紹介します。

今年は9月13日(木)の午後(5～6校時)、小松島小学校の体育館で、4学年の児童と保護者の参加(教職員ふくめて103名)で開催しました。

開催の経緯は、2007年に小学4年生の「新・みんなのほけん3・4年」(学習研究社)、「育ちゆく体とわたし」に準拠した授業を担当との TeamTeaching を担当したことからはじめました。校内研究授業で、教職員、PTA 役員の見学により内容が評価され、すべてのクラスでの授業を依頼されました。時間が取れないことを理由に断りましたが、PTA 役員の強い熱意に押し切れ、2008年から親子PTA行事として開催を続けています。

性教育へのアプローチとして、子どもたちと保護者に『命の大切さ』を伝えることを目的としています。前半は「赤ちゃんはどこから来るの」で、基本的には性教育の取掛かりの話ですが、子どもたちにわかりやすいように、簡単なことから始めます。前半は親子そろっての講話ですが、後半は保護者を対象とした事前に寄せられた質問等を中心とした懇談会です。

まずは、「みんなはどうやって生まれてきたの」クイズからスタートです。ご想像のように、「コウノトリが運んできた、卵から生まれた、お母さんから生まれた」の選択問題です。当然のことながら、4年生では誰も間違はずはありません。お母さんのお腹の中にいる期間、生まれた時の体重、母親のお腹の中で大切に守られていることを知って欲しいと思っています。

続いては、院長が専門としていた新生児医療の話です。新生児集中治療室(NICU)に収容された576gの赤ちゃんの成長する姿を見られます。親に心配され、多くの人に支えられて、育ってきたことを知ってもらうためです。そして、ひとりで大きくなってきたんじゃないことを理解し、みんなに支えられている命を大切にしなければならないことを伝えます。“命を大



切にするというのは、命のことをしっかり考える”ということで、一区切りつけます。

次には、オスとメスがいないければ、命は生まれないこと。ずっと昔から命が、つながっていることを知ってもらいます。そして命をつなげていくための準備が、そろそろ始まることを示し、ここから性教育に少しずつ入っていくのです。本題に入る前に、実習に来ている医学部の学生さんが赤ちゃんを抱っこしている姿を見せ、赤ちゃんの素晴らしさを伝えます。赤ちゃんは、ひとに、やさしさと笑顔と希望、そして勇気を与えてくれることを。そして、赤ちゃんの成長とともに、周りの人たちも成長していくということも伝えます。

これからが本題で、いわゆる性教育で4年生の教科書に沿ったものです。命をつなげていくための準備に関して、腋毛や陰毛が生えてくること以外に、男の子(声変わり、がっしりとした体つき)と女の子(胸の膨らみ、丸みのある体つき)の体の変化だけではなく、異性に関心がでる、異性が気になるなどの心の変化について説明します。その後には外からは見えない、体の中の変化に伴う精通や初経の話をしします。このような大人になるための準備は、脳からの指令でおこることを説明し、指令が始まる時期に個人差があることを理解してもらいます。ひとは皆違うこと、違いを深く考えることの必要は無く、自分らしさを大切にすることも伝えます。

そして最後のまとめの言葉が、“もう一度命の大切さを考えてみよう”で締めくくります。

最後に参加したお母さんからのメールを紹介しします。「いつもお世話になっています。〇〇〇〇の母です。今日は、命のつながりの話をありがとうございました。今までも、本人に出生時の事を話していました。早く生まれて小さかったこと、保育器に入っていたこと、皆に助けられて大きくなったこと。そして、何よりも〇〇が生きようと一番頑張ったこと。ただ、出生体重だけは本当のことが言えずにいました。ショックを受けるんじゃないかと思って…。でも、今日のお話を聞いてちゃんと話そうと思いました。〇〇の力を信じて、これからの成長を見守りたいと思います。そして、今日のお話を親子でしたいと思います。今日は本当にありがとうございました。」

この活動は性教育といいながら、「命の大切さ」がメインテーマです。「命の大切さ」を伝えることは、自分自身だけでなく、他人のことも考えることにもつながります。親子揃って聞いてもらうことは、話しにくい性教育の話題が食卓に上り、親と子のかかわり合いの大切さを考えるきっかけになればと思います。このような小学生に対する活動が広がり、虐待やいじめ防止につながることを願って止みません。



## 10月のお知らせ

・栄養育児相談 10日、24日(水)  
13:30～ 栄養士担当 無料

・休診のお知らせ

プレパパ・ママのための「赤ちゃんすこやかセミナー」

20日(土) 午後休診



『がんばろう！宮城 がんばろう！日本』  
“みんなでやれば、大きな力に”

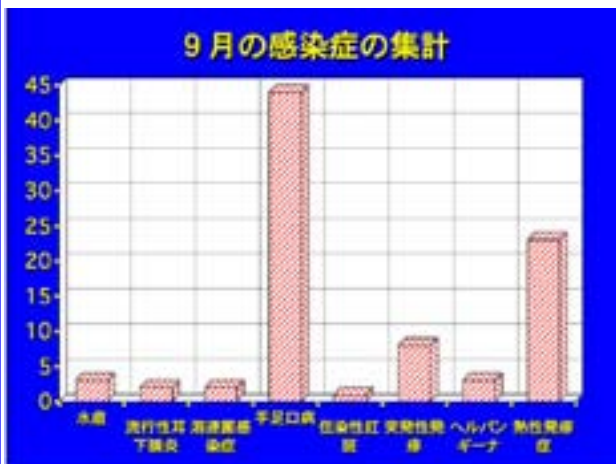


## 読者の広場

先月も12通のメールで、やや少なめでした。まずは、メールのトラブルに巻き込まれた匿名さんからです。「先日久しぶりに川村先生に会えましたね。看護師さんとの会話…私の愚痴等を聞いて貰い、病院の帰りは笑顔です。3歳になってから、風邪もひかず、発作もなく通院も減っちゃいましたからねえ〜。しかも私事なんですが、数ヶ月前から携帯に芸能人からのメールが届くようになり(・・;)。酷い時は1時間に30件とか無視すれば良いんですが嵐ファンの私にとって、嵐と名乗る人から届くメールには、かなり憤慨。アドレス替えれば済む事ですが、それも嫌!。という事で、パソコンからのメールを一括拒否。結果、かわむらクリニックニュース等が届かなくなる事に(・・;)。なので先日受付で頂いたクリニックNEWSとても嬉しかったです。迷惑メールが落ち着いたなら、またパソコンメール受信にしますから、それまではしばらく我慢します。」メールはちょっと用心しなくてはなりません。公式なサイトではほとんど問題はありませんが、知らない差出人からのメールは要注意です。相手が見えないわけですから、誰からのものかわかりません。1時間に30件送るほどの暇な人は普通はいないはず。止めておけば、いずれ入らなくなります。それまでは、我慢我慢。皆さんも気をつけてください。携帯の迷惑メールソフトの設定で [kodomoclinic.or.jp](http://kodomoclinic.or.jp) をOKにしておけば、当院からは届きます。PCではどうなのか(当方Macなので)、スルーすることは可能ですから。もうひとつ震災後のPTSDのお子さんの相談です。こちら匿名です。「いつもお世話になっております。また先生にご相談なのですが、友人の甥。今は中学3年になのですが、半年位前に学校で友達とふざけていておちんちんを切る怪我をしてしまいました。石巻の日赤で治ったのですが、最近になり夜間胸が苦しいと訴えることが増え、夜間救急に行くことも多くなり日赤の医師に診て頂いたらPTSDとのことで、志津川で震災を経験したことが土台にあり、おちんちんを怪我してしまったことが引き金になったということのようです。カウンセリングは受けてはいるのですが、良くなる感じがなく、頻りに仙台に来ているので、このような症状を診てくれる子供の精神科がありましたら教えて頂きたいです。お忙しい所すみません。宜しくお願いします。」参考までにアドバイスも「メールありがとう。中学生で、胸の苦しさを訴え、身体的な異常が無いということであれば、やはり精神的な要素が強いかと思えます。震災と怪我が重なり合っているのであれば、PTSDの可能性が高いと思えます。仙台市内で子どもの精神科では、東北福祉大学せんだんホスピタルか大学病院の精神科がいいかと思えます。日赤から紹介状を頂いて、親御さんに予約してもらおうのが、一番手っ取り早いと思えます。以下に住所と連絡先を示しておきます。せんだんホスピタル 022-303-0125 東北大学病院 022-717-7737」。



最後に、9月20日『お母さんクラブ』“あなたは大丈夫?子どもの救急蘇生!”に参加した青葉区の千葉さんからの感想を紹介します。「毎年、楽しみにしています。新しい情報も聞けたりと、何度参加しても有意義な時間です。鎌田さん、川村先生、スタッフの皆さんのお話を何度も聞いているつもりでも、いざとなると慌ててしまいます。先日、子供が頭を強打…大きな鳴き声と大きなこぶを見て119してしまいました。大事に至らなかったのが笑い話になりましたが、いつ何が起こるかかわからないですよ…これからも参加して、いざという時の心も鍛えていきたいと思えます。」



手足口病が急増しました。しかしながら発熱は少なく重症な例はありません。お尻(肛門のまわり)にも出るので、冗談で“手足口けつ病”と言ってます(笑)ほかに目だった感染症はありませんが、発疹が出る夏カゼが多くみられました。

## Mail News, Twitter, Blog, Facebook の紹介

**Mail News** は、400人を越えるお母さんが登録。右上のQRコードから登録できます。件名を「登録希望」とし、登録者の名前とお子さんの名前を記載し送信してください。

新しい情報発信として **Twitter**、**Blog**「子どもクリニック四方山話」、**Facebook** ページ、**YouTube** にも取り組んでいます。子育て、医学、趣味、グルメ、旅行記等のおもしろい話題満載。見るだけでも楽しいかもしれません。是非ご覧ください!

Mail News かなり戻ってきます。届かない場合は [kodomoclinic.or.jp](http://kodomoclinic.or.jp) をドメイン指定して下さい。



MailNews



Twitter



Facebook



Blog

## 編集後記

今年は夏が暑かったせいか、いつまでたっても夏カゼが続いています。しかしながら、患者さんの数自体はあまり多くありません。

仕事の方は相変わらず忙しく会議だけでなく、今月は妊婦さんとその家族の「赤ちゃん すこやかセミナー」で、ワクチンと予防接種の基本を講演します。まったく知識がない状態なので、かえって難しい(笑)



**K's clinic**

**麻疹風疹ゼロ作戦キャンペーン 『1才のお誕生日に麻しん風しん混合ワクチンを』**  
『お母さんクラブ』を新年度から再開します。現在会員を募集中です。参加希望は受付まで。!!